

## 「歩き遍路とお接待文化を考えるシンポジウム」開催報告書

NPO 法人 徳島共生塾一步会

1. 開催日時	平成25年9月14日（日） 13:30～16:30					
2. 講座名	歩き遍路とお接待文化を考えるシンポジウム					
3. 開催場所	県立総合福祉センター 4F会議室					
4. シンポ内容 （概要項目）	1) スライドショー「画像で歩く四国遍路」宮本光夫さん提供 2) 基調講演「外国人からみた四国遍路とお接待文化」 徳島文理大学客員講師 モートン常慈さん 3) 活動報告と相互討議 報告者「ひわさうみがめお接待の会」 高橋知子さん 「徳島ユネスコ協会」 岩見美智子さん 「柳水庵ボランティアグループ」 相原久子さん 歩き遍路・公認先達 山下正樹さん 々 本間誠司さん コーディネーター 一步会 新開善二 コメンテーター モートン常慈さん					
5. 参加者	100名	徳島市 39名	阿南市 16名	海部郡 24名	県外 6名	その他 15名
6. 添付資料	会場の写真					
7. 全体を通しての意見、提案、課題等の抜粋（活動発表、会場討論、アンケートから）	[歩き遍路とお接待について] 1) 近年、お遍路全体は減っているが、歩き遍路は増えている。 2) 外国からの歩き遍路は、韓国を筆頭に東南アジア、ヨーロッパ等多くの国にわたる。 3) お接待は世界どこにもない日本独自の風習文化であり、外国人からも高く評価されている。大事に守るべき。 4) 物品の提供以外、言葉をかけることは大事なお接待である。「ようこそ」「お疲れ様」「お元気で」等、心から喜ばれる。地域に広めていこう。 5) 歩き遍路のことを考えない強要的なお接待は“お節介”となる。注意すべきこともある。 6) お接待団体はどこも高齢化している。若年者をお接待に誘い込む等次世代への継承に留意し、取り組もう。 7) お接待の取組みで、地域の交流が増して地域の一体化に繋がっている。 [遍路道の保全について] 1) 道案内の標識があるところ、ないところまちまちである。点検して万弁なく設置すべし。 2) 山中よりは、開発で移り変わる“まち中”の標識が不足している。 3) トイレの不足は最大の課題である。どこが不足か調査してトイレの増設に取り組むべき。 4) 外国人お遍路の増加に備えても様式トイレの設置増が求められる。 5) 香川のトイレは汚いという意見が複数の歩きお遍路から聞かれた。 6) ごみの問題は分解消されたが、廃車や廃家電の放置がところどころに残っている。 7) 倒木や枯れ木、伸びた雑草等歩きにくい場所を定期的にフォローする地域の作業体制が必要。 [その他] 1) 来年は開創1200年でお遍路全体（観光・マイカー・歩き）が増加すると見込まれる。現状の課題解消に向けた行政、札所、地域挙げての取組みが求められる。 2) 課題をクリアしながら、歩き遍路で“健康と癒しのツーリズム”、地域の“歴史探索ウォーキング”等四国遍路を活かしたまちづくり、地域の活性化が充分期待できる。					

# 歩き遍路とお接待文化を考えるシンポジウム（写真報告）



会場いっぱい参加者



歩き遍路・山下さん



基調講演のモートン先生



意見交換も活発に行われた



宮本光夫さんの遍路写真展